

野洲支部 第2回懇話会「心に触れる出会い」の報告

6月の第1回に続き、8月度親鴨だよりでご案内しましたように「心に触れる出会い」というタイトルで第2回懇話会が9月13日（月）、野洲事業所内ゲストルームで行われました。当日は、ウィークデーにも拘わらず会員、非会員、ご家族、子鴨の方々と約20名のご参加を頂き誠にありがとうございました。今回は最初に広瀬 幸一さんの「巨木を訪ねて（1）一樹を通して人との関わりも」ということで巨木、それを通して人との出会い等を興味深く話されました、次に柴原 喬さんからは「戦争、その忘れられない傷跡との再会」ということで戦時、戦後を通じてご自身の体験を語って頂きました。

次に柴原さんのお話に対してCSTS林様ご夫妻の感想文をご紹介します。

「壮烈なご体験をなされた話を聞いていますと私の本土での戦争体験などしれたものと感じざるを得ませんでした。戦中のハルビンの生活、戦局の厳しくなってきた頃からソ連の参戦から銃器の恐怖、食料の不足、満州からの引揚者の苦労など多々、書物の世界と映像の世界しか知識として知っているだけで軍人家族の戦前と戦後のそれとの対比しながら天国と地獄を幼少に体験なされたこと身近に生き証人として淡々と語られたことが印象的でした。ソ連兵との対峙、いつ発砲されるか知れない状況に於いて、一日一日を生きていることの確認が日常だったこと、ハルビンでお母さん、二人の幼い妹さんに引続き、おじいさんにご自身が伝染病に罹られて、生死の境をさまい命の引継ぎがなされたこと、父君の亡くなられた時の虫の知らせ、ご子息が仕事でハルビンに赴かれた事などただただ偶然とは言い難い運命と言いますか神仏のなせる業か不思議なご体験として感じました。今の日本の平和で自由な現在があるのはこの頃の戦争の犠牲者の上に成り立っていることをつくづく感じざるを得ません。親鴨の諸先輩の方々も同様なご体験をされた方も多々いらっしゃると思います。思い出したくないと思われる方々もいらっしゃるでしょうが、この日本を再び悲劇にならないようご体験手記などご寄稿をお寄せいただき戦争の悲惨さを継承してゆく必要があると思います。感動的なご体験談ありがとうございました。」

（林 嘉彦）

「柴原さんの淡々とした物静かな語り口から、ドラマ以上のドラマに私の心は吸い込まれてゆきました。今まで、親しい友人たちにもほとんど話されなかった御自身の幼少年時代の満州での、あまりにも凄まじく、悲しい、辛い歴史の真実を語られました。語るにより無念の死を遂げられた柴原さんの大切な御家族のお姿が現れてまいります。これは、54年目の、62才の柴原さんの、今は亡き御家族に対して、なによりの御供養となったのではないのでしょうか。」

（林 陽子）

野洲支部懇話会

「巨木を訪ねて一樹を通して人との関わりも」

第2回 懇話会で話されました、広瀬幸一さんに巨木との出会い、その心境を寄せて頂きましたのでご紹介します。

巨木との出会い

広瀬 幸一

以前、縄文杉が発見され話題になった頃、見るものを威圧するような重量感、ごつごつしたこぶがいくつも盛り上がって波打つ樹肌、上に「超」をいくつもつけたくなるほどの巨樹を写真で見て感動したのが関わりの始め。

「日本の巨木」という本に県内水口町にある高山の笠スギがあることを知り、訪ねたところすでに10数年前に倒壊する危険がでてきたため伐採されていた。このことから見る機会は限りがあることに気がついた。

'91年環境庁が発行した「日本の巨樹・巨木林」全国版を手に入れ、全国で幹周第1位の巨樹が鹿児島県蒲生の大楠、第2位が熱海市にある来の宮の大楠であることが分かり、機会があり来の宮の大楠を見てから、さらに関心を持つようになった。

すばらしい巨樹・巨木林を大切に保存していくため、滋賀県では平成3年3月に「滋賀県自然環境保全条例」に基づく自然記念物の指定を行った。県下では初めての指定で、県内にある巨樹・巨木林のうち、すでに学術的な立場から国、および県の天然記念物に指定されているものを除き二十箇所が選ばれた。これを約5年がかりで巨樹巡礼を終えた訳だが、これには県庁にある自然保護課の方々の協力・援助があり、二十箇所それぞれ5万分の1と2千5百分の1の地図のコピーと、関係資料を送っていただき大助かりでした。

このうち指定番号16の余呉町上丹生のケヤキを訪ねたとき、治療に当たっていた樹木医の方と出会い、その後文通を続けながら必要な情報を教えてもらっています。この方は現在、滋賀県樹木医会長として県内外に知られている方です。

只今は県外に足をのばし巨樹・巨木MAPこれだけは見てほしい212本を少しずつ訪れて見たいと考えています。

